

科目名	マクロ経済学Ⅱ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Macro Economics Ⅱ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
ふりがな	フカサワ ヤスオ	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	深澤 太郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	マクロ経済学Ⅰに基づき、モデル、理論面について学ぶことにより、日本経済についての理解を深めます。			
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本経済の経済指標等の実際のデータに基づき、マクロ経済学の基礎知識が習得できる。 2. その上で、マクロ経済学の理論的な理解が深まる。 3. 上記により、日本経済の問題点が理解でき、社会人として求められる以上の水準に達する。			
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に教科書、掲示された資料に目を通してもらい、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行いたい。経済指標等のデータに基づき理論を確認し、基礎知識を取得した上で、自ら考える姿勢を身につけてもらいたい。			
授業計画	(授業においてポータルサイトに掲示された資料等は、すべて試験の範囲に含まれる)			
第1回	イントロダクション：現在の世界経済の外観、日本経済の現在の立ち位置 掲示資料			
第2回	閉鎖経済の短期モデルの展開 の復習(1) 教科書 第6章			
第3回	閉鎖経済の短期モデルの展開 の復習(2) 教科書 第6章、			
第4回	閉鎖経済の短期モデルの展開 の復習(2) 教科書 第6章、			
第5回	国民経済計算の考え方・使い方、国際収支統計の作り方・見方の復習 教科書 第2章			
第6回	決定的な日本の人口問題 配布資料 マクロ経済モデルの基本的な考え方 教科書 第5章			
第7回	中間テスト(持ち込み可)			
第8回	中間テスト 返却・解答と解説			
第9回	閉鎖経済の中期モデルの展開(1) 基本的な考え方 教科書 第7章			
第10回	閉鎖経済の中期モデルの展開(2) 中期モデルにおける右上がりの総供給曲線 教科書 第7章			
第11回	開放経済モデルの展開(1) マクロ経済と貿易・資本取引・交易利得 掲示資料 教科書 第9章			
第12回	開放経済モデルの展開(2) ISバランスと国際マクロ均衡 掲示資料			
第13回	開放経済モデルの展開(3) マンデル・フレミングモデル 掲示資料 教科書 第9章			
第14回	開放経済モデルの展開(4) マンデル・フレミングモデル 教科書 第9章			
第15回	日本の金融政策について 掲示資料			
第16回	定期試験(持ち込み不可)、期末テスト(持ち込み可)			
授業時間外の学習	テキストの該当箇所は事前に通読し、疑問点があれば質問すること(0.5~1時間)。確認のための復習をし、疑問点があれば翌週に質問すること(0.5~1時間)。			
履修条件 受講のルール	「マクロ経済学Ⅰ」、「基礎数学Ⅰ」、「基礎数学Ⅱ」の単位を取得済みのこと。以降か同時に「経済成長論」も履修することが望ましい。 教科書を必ず購入してください。また、適宜資料を掲示しますが、休んだ場合はポータルサイトを 確認してください。受講者の理解度等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。 受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。また授業で			

	<p>パソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。</p> <p>なお、長文の資料等については、正しい理解ためにはプリントアウトが必要な場合があります。そのコストは自己負担となりますが、適宜判断して下さい。</p>
テキスト	斎藤誠ほか3名「マクロ経済学（有斐閣、2016年）」、揭示資料
参考文献・資料	深澤泰郎「日本経済と財政危機の本質シリーズ」のいくつかのシリーズ(揭示します)
成績評価の方法	<p>中間テスト（40%）、期末テスト（40%）、定期試験（10%）、その他（10%）</p> <p>出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10</p> <p>金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>マクロ経済学は、日本経済を理解するための必須のツールです。そして日本経済を理解していることが、社会人として求められます。株価が最高値を行使したとしても、日本のマクロ経済の先行きは相当暗いと言わざるを得ませんが、その中で個人として生きるための知識が身につきます。</p>